

東日本大震災現地NPO応援基金[特定助成]  
東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト

## 第5回選考結果のご報告

2014年9月

認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター

## 目次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 1.第5回助成対象事業一覧.....    | 1  |
| 2.第5回助成選考総評.....      | 2  |
| 3.第5回助成概要と選考理由.....   | 4  |
| 4.第5回助成応募概況.....      | 7  |
| 5.第1回から第5回までの助成対象事業一覧 | 10 |

## 1.第5回助成対象事業一覧

助成件数:6件 助成総額:2,324万円

| 助成番号  | 事業名                              | 団体名                         | 所在地         | 助成額       |
|---|----------------------------------|-----------------------------|-------------|-----------|
| 5-1   | 街角・Café&軽食 桜さくら／フリースペースららぽーと     | 特定非営利活動法人<br>夢みの里           | 宮城県<br>石巻市  | 340<br>万円 |
| 5-2   | 被災による子どもの貧困救済及び貧困連鎖予防事業          | 特定非営利活動法人<br>キッズドア          | 東京都<br>中央区  | 456<br>万円 |
| 5-3   | ふくしまの農業を現地で知り交流する「スタディファーム」の構築   | 特定非営利活動法人<br>がんばろう福島、農業者等の会 | 福島県<br>二本松市 | 470<br>万円 |
| 5(継)-1  | 津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援第二期 | 特定非営利活動法人<br>ウイメンズアイ        | 宮城県<br>登米市  | 390<br>万円 |
| 5(継)-2  | 仮設住宅住民の心身の健康維持と災害公営住宅のコミュニティ形成   | 特定非営利活動法人<br>日本国際ボランティアセンター | 東京都<br>台東区  | 283<br>万円 |
| 5(継)-3  | 障がい児の被災者家族の支援プロジェクト              | 特定非営利活動法人<br>ふよう土 2100      | 福島県<br>いわき市 | 385<br>万円 |
| <p>*第5回助成は 2014年7月1日から7月15日までの応募について8月,9月に選考し助成が決定したものの。<br/>*助成期間は 2014年10月1日から2015年9月30日までの1年間。</p> |                                  |                             |             |           |

## 2.第5回助成選考総評

選考委員長 大橋 正明

### [JT NPO 応援プロジェクト概要]

「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」は、日本NPOセンターが2011年3月から行っている「東日本大震災現地 NPO 応援基金」に対して、日本たばこ産業株式会社から寄付を受け、「特定助成」として実施している事業である。過去1年間に4回公募を行い、23団体に助成している。2年目となる今回は、5回目の新規助成であるとともに、1年間の事業を終える助成案件(第1回助成)に対する継続助成も始まった。

### [応募状況と選考プロセス]

第5回助成(助成期間2014年10月1日～2015年9月30日)は、2014年6月より告知を開始、応募受付期間は7月1日～7月15日であった。新規助成の応募数は合計50件であった。応募事業の活動地域別内訳は、これまでと同様に宮城県が最も多く、福島県、岩手県の順であり、団体の所在地では宮城県と福島県が同数で、岩手県が次に多かった。50件の内、過去4回の助成に応募したのは21団体であり、これまでの4回と比較して再応募の割合が最も高く、4割を越えている。継続助成については、対象となる第1回助成5団体のうち、4団体から応募があった。

新規助成の選考プロセスは、これまでと同様にまず事務局による予備審査で応募要件等に基づいて慎重に検討を行い、選考委員会において選考すべき16件を選出した。続いてこの16件について選考委員が書面評価を行い、その結果を基に全員参加の選考委員会の場で審議を行い、助成にふさわしいと思われる4団体を選出した。選考委員会後、事務局スタッフが4団体を訪問し、活動状況や選考委員会から求められた確認点等について詳細な聞き取りを行った。このインタビュー結果を選考委員長に報告し、最終的に委員長による決裁を行い、助成事業3件を決定した。助成額合計は1,266万円であった。

一方、継続助成についても、これまでの活動実績なども踏まえて選考委員会で審議を行い、継続助成がふさわしいと考えられる団体を4団体選出、新規助成と同様に事務局による聞き取りを行ったうえで、選考委員長にその結果を報告し委員長決裁を経て、助成事業3件を決定した。助成額合計は1,058万円であった。新規と継続をあわせての助成は6件、助成金額は2,324万円となった。

### [選考における議論のポイント]

今回もこれまでと同様に JT NPO 応援プロジェクトの5つ選考基準\*1をベースに審議を行った。

#### \*1《JT NPO 応援プロジェクト選考基準》

地域性:活動する地域のニーズを把握、事業の内容がそれらに基づいて組み立てられているか

参加性:地域の人々や外部からのボランティア等の参加が期待できるか

連携性:地域の他の団体、企業、自治体等と協力して事業が実施されるか

実現性:目標設定、目標に対する計画、予算等が適切で実現性が高いか

継続性:参加する人々の主体性を育て、活動する地域への長期的な貢献を行なえるか

なお、継続助成については、上記の選考基準に加えて、1年目事業の活動実績や目標達成状況なども評価した。

これらの選考基準に照らし合わせて審査した結果、新規助成については、全ての選考基準について万遍なく高い評価ができる事業は数少なかった。対照的に継続助成については、これまでに選ばれているという事情もあって一定水準に達している事業が多くみられた。選考委員会において、評価が高くなった事業の特徴および議論のポイントは、主に以下の2点である。

第1に、実施事業における地域性、実現性である。発災から3年余り経過するなかで、本格的な復興に向けての地域ニーズや課題をしっかりと分析・把握しているか、それらの課題解決に向けて計画とプログラムを具体的かつ緻密に練り上げているか、そのために行政や他団体との連携や協力体制はどうなっているか、これらの点から大いに議論して、優れた事業はおしなべて高い評価を得た。

第2に、実施事業の参加性、継続性、発展性である。地域住民が活動主体であれ受益者であれ、その参画の度合いや広がり・関わり方、また、そのコンセプトと年間の収支計画がかみ合っているか、さらには事業の発展性や3～5年先の中長期計画や将来の展望はどうなっているのか。これらの点について適正な検討を行っていると思われる事業は、概ね高い評価を得た。

本プロジェクトは2013年8月に開始し、これまでに5回募集が終わり、累計約290件の応募をいただき、合計29件の助成が決定した。それらの内容を見ると、発災から3年余りが経過するなかで、被災地支援を巡るニーズや地域課題の変化への対応の仕方、そしてそれらの活動に取り組む目標設定や将来展望、あるいは活動主体の在り方などが問われているように思われる。今回の選考委員会でも、過渡期を迎えている被災地支援において、変化が連続する地域課題に応じてしっかりした目標を掲げ、将来を見据えた事業が求められているとの認識が共有された。これらは、今後ますます重要な要素となるだろう。今回の助成事業がそれぞれのモデルとなり、本格的な復興の一助になることを強く願っている。

## 【選考委員】

委員長 大橋 正明 認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター 副代表理事

委員 栗田 暢之 特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 代表理事

委員 後藤 麻理子 特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 理事・事務局長

委員 諏訪 徹 日本大学 文理学部 社会福祉学科 教授

委員 永田 亮子 日本たばこ産業株式会社 執行役員

### 3.第5回助成概要と選考理由

---

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 助成番号   | 5-1                          |
| 事業名    | 街角・Cafe&軽食 桜さくら／フリースペースららぽーと |
| 団体名    | 特定非営利活動法人 夢みの里               |
| 主な活動地域 | 宮城県石巻市                       |

---

#### 【選考理由】

夢みの里は、障害のある人もそうでない人も共に暮らせる環境づくりと子育て支援を目指して、主に障害児の放課後デイサービスなど障害者通所支援事業や英語教育支援事業を展開してきた団体である。震災では大規模半壊の被害を受けた。

助成事業では、津波で活気を失った石巻の街に、軽食・喫茶ができるミニレストラン兼カフェとフリースペースを開設する。この場所は、障害児をもつ母親や特別支援学校卒業後の障害者に働きやすい就労機会を提供するとともに、障害児やグレーゾーンの子どもの母親たちにとって気軽に集い情報交換できる場でもある。また広く一般に開放して茶話会や研修会など誰もが立ち寄ることのできる、交流の場にしようとしている。

2014年10月にオープンするミニレストランでは、障害者が農場で育てた無農薬野菜を食材とするメニューづくりを計画しており、障害児の母親2名がその運営に主体的に携わる。このように障害児やその親たちが地域で仕事をすることを通じて、人々の憩いと交流の場として根付き、まちの活性化にもつながっていくことを期待したい。

---

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 助成番号   | 5-2                     |
| 事業名    | 被災による子どもの貧困救済及び貧困連鎖予防事業 |
| 団体名    | 特定非営利活動法人 キッズドア         |
| 主な活動地域 | 宮城県仙台市                  |

---

#### 【選考理由】

震災から3年半が経過し、仙台市内では被害の直接的な爪痕は見えなくなりつつある。復興の波に乗り生活再建を果たした人はいるが、一方で雇用を失ったり収入が減少したりと、経済的なダメージを克服できない層も少なくない。経済的に厳しい家庭の子どもたちにとっては、自宅での学習環境が悪い、食事が満足にとれず勉強に集中できないなど、学習の遅れや進学への障害となる事態が生じている。資金面の課題とともに子どもたちの学習意欲や将来への希望を高める働きかけが重要になっている。

助成事業は、中高生の居場所機能をもつ自習室を開くことで、学校帰りの子どもたちの学習と食事の支援を行なうとともに、大学生ボランティアによる身近なサポート体制をつくるものである。また、将来に向けての希望や夢を描くためのキャリア教育や大学見学、さらには家庭に対する教育資金や家計全体への相談事業を並走し、子どもたちの夢を実現するための経済基盤を整えるための支援も準備している。きめの細かい支援効果とあわせて、被災による貧困の連鎖を防ぐことも期待したい。

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 助成番号   | 5-3                            |
| 事業名    | ふくしまの農業を現地で知り交流する「スタディファーム」の構築 |
| 団体名    | 特定非営利活動法人 がんばろう福島、農業者等の会       |
| 主な活動地域 | 福島県二本松市                        |

#### 【選考理由】

がんばろう福島、農業者等の会は、福島県内の30の農家により組織され、震災直後からネットショップを立ち上げるとともに、150回以上首都圏等への直販活動を行う等、放射能汚染に対する風評被害に立ち向かいながら、安全な農作物を市場に送り出し消費者の理解を得るための活動を続けてきた団体である。

助成事業では、消費者に福島での農作業の現場を実際に見ていただき、生産者と消費者の顔の見える交流ができる場づくりとして、福島県二本松市にてスタディファーム「二本松農園」を構築しその機能整備に取り組む。さらには、県内の果樹農家や観光との連携を図る「県内ルート」づくりも行う。加えて、東京、大阪、福岡等に出向き、福島県の農業の現状を説明し交流する出張スタディファームにも取り組む。

本事業を通じて他地域から多くの市民が訪れ、福島県の農業者の状況やさまざまな挑戦を続けているその熱意と行動力がよく理解され、交流が生まれることから得られる成果を期待したい。

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 助成番号   | 5(継)-1                           |
| 事業名    | 津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援第二期 |
| 団体名    | 特定非営利活動法人 ウィメンズアイ                |
| 主な活動地域 | 宮城県南三陸町                          |

#### 【選考理由】

ウィメンズアイは、被災地での女性支援をミッションに、気仙沼市、南三陸町、登米市で、女性たちのコミュニケーションの場づくり、シングルマザー支援、女性グループの活動支援に取り組んできた団体である。助成事業は、第1回助成からの継続事業として農村・漁村の中山間地域において、女性グループによる地域社会の課題解決につなげていくためのきめ細かい相談事業や各種講座を実施するとともに、身の丈に合った持続可能なソーシャルビジネスの立ち上げ支援等にも新たに取り組む。

雇用創出や起業支援の取り組みにおいては、地域の団体による息の長い支援が求められるが、地域のNPO、行政、商工会等との協力体制を構築しながら、信頼できる相談窓口として一定の評価を築いてきていること、支援先団体や支援方法の課題がしっかり分析されており、ワークショップ、個別相談、専門家との相談会、合同スキルアップ講座、個別研修等、個々の事情や進捗に応じた丁寧な支援を行っている点は高く評価できる。

萌芽的な活動を始めている支援先の女性グループが持続的に活躍できる力を身につけるための、より一層の地域を巻き込んだ丁寧な伴走支援・協力体制作りと、自立化の推進を期待したい。

---

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 助成番号   | 5(継)-2                         |
| 事業名    | 仮設住宅住民の心身の健康維持と災害公営住宅のコミュニティ形成 |
| 団体名    | 特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター       |
| 主な活動地域 | 宮城県気仙沼市                        |

---

**【選考理由】**

日本国際ボランティアセンターは、宮城県気仙沼市四ツ浜地域の在宅住民と鹿折中学校仮設住宅の住民を対象に個別訪問や交流会などを定期的で開催してきた。こうした丁寧な関係づくりが功を奏し、懸念される孤独死防止にもつながっている。

助成事業はこの活動をさらに発展させ、特に仮設住宅住民の心身の健康維持のための活動に取り組むとともに、この地域に建設される災害公営住宅のコミュニティづくりに資するため、行政や他支援団体も巻き込んだワーキンググループを設置し今後の対応策を協議する。被災沿岸部各地は、防災集団移転や災害公営住宅への転居に伴うコミュニティの再構築が最重要課題となっており、この取り組みが優れた先進事例として他にも波及されることを期待したい。また、多くの外部支援団体が資金面などの理由で撤退または活動休止を余儀なくされている現状の中、息長く地元と伴走されることも期待している。

---

|        |                     |
|--------|---------------------|
| 助成番号   | 5(継)-3              |
| 事業名    | 障がい児の被災者家族の支援プロジェクト |
| 団体名    | 特定非営利活動法人 ふよう土 2100 |
| 主な活動地域 | 福島県郡山市              |

---

**【選考理由】**

ふよう土 2100 は、長期の避難生活や原発事故の影響で不安やストレスを抱える障害児とその家族の支援を目的とした事業を行っている。1年目の活動では、交流サロンを年間 300 日近く開き、原発警戒区域の双葉郡から避難している人たちを含めて多様な年代の障害児・者延べ 1000 人に活用された。また、家族の相談やストレス軽減のプログラム、障害児と兄弟の自然体験学習活動、スタッフの育成活動が行われた。

当初の活動目標はほぼ達成されたが、障害児の放課後の居場所づくりや支援学校卒業後の就労相談やきめ細かいアフターフォローなどのニーズは高く、2年目の活動では、交流サロンを2015年4月から「放課後サービス」に移行させるとともに、常設の相談室活動を充実強化し、併せて就労体験講習会の開催などの新規事業にも取り組む。

1年目の活動により事業が地域に必要なものとして定着し始めているので、これらの活動をよりニーズに沿った形で発展的に継続させて、障害児の被災者家族の支援にあたってほしい。さらには、公的財源の確保を含む財政基盤の確立、人材育成、組織体制の強化などを検討されて、この事業が中長期的にしっかりと根付いていくことを期待したい。

#### 4. 第5回助成応募概況(応募期間:2014年7月1日-7月15日)

##### ■応募概況

第5回の応募件数は54件(新規助成50件、継続助成4件)であった。応募団体の所在地は、東北3県で42件、77%であり、活動地域に関しては、宮城県が一番多く24件、約44%であった。応募金額に関しては、新規助成は平均:449万円、最低金額:300万円、最高金額:500万円であった。継続助成は平均:371万円、最低金額:283万円、最高金額:400万円だった。

##### ■団体所在地(図1)

最も多いのは、福島県の18件であった。東北3県以外は、東京都からの応募件数が6件と最も多く、その他愛知県、岡山県、岐阜県、京都府、栃木県、兵庫県から応募があった。

##### ■活動地域(図2)

宮城県が一番多く、24件、約44%と約半数を占めた。岩手県は7件に減少、福島県は前回と同数20件であった。残り3件は複数県にまたがる事業であった。

##### ■設立時期(図3)

団体の設立時期を2011年3月の発災時を起点にその前後で集計した。2011年3月以前設立が26団体、3月以降設立が27団体(1団体は不明)とほぼ同数という結果となった。

図1 (団体所在地)

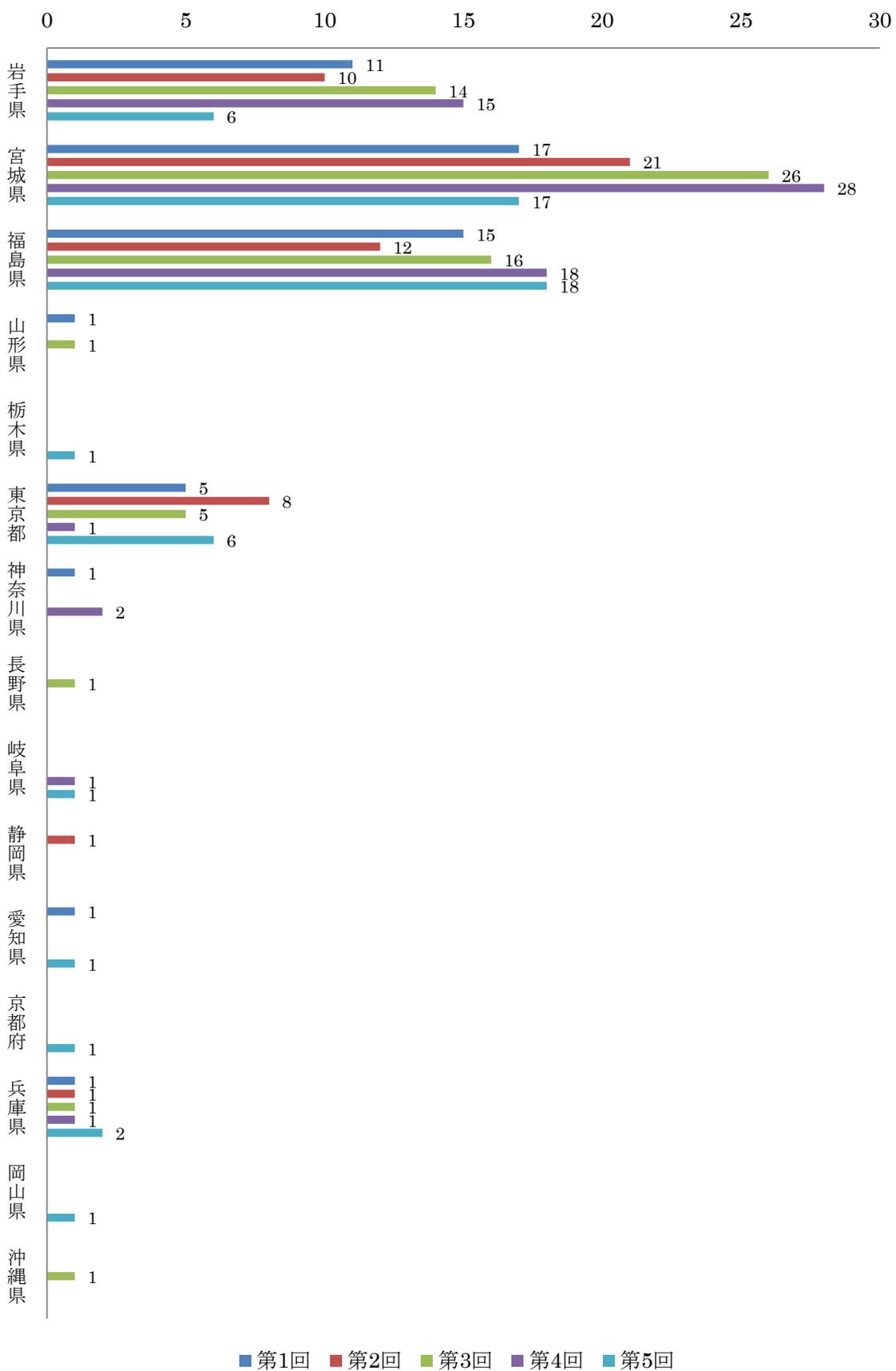


図2 (活動地域)

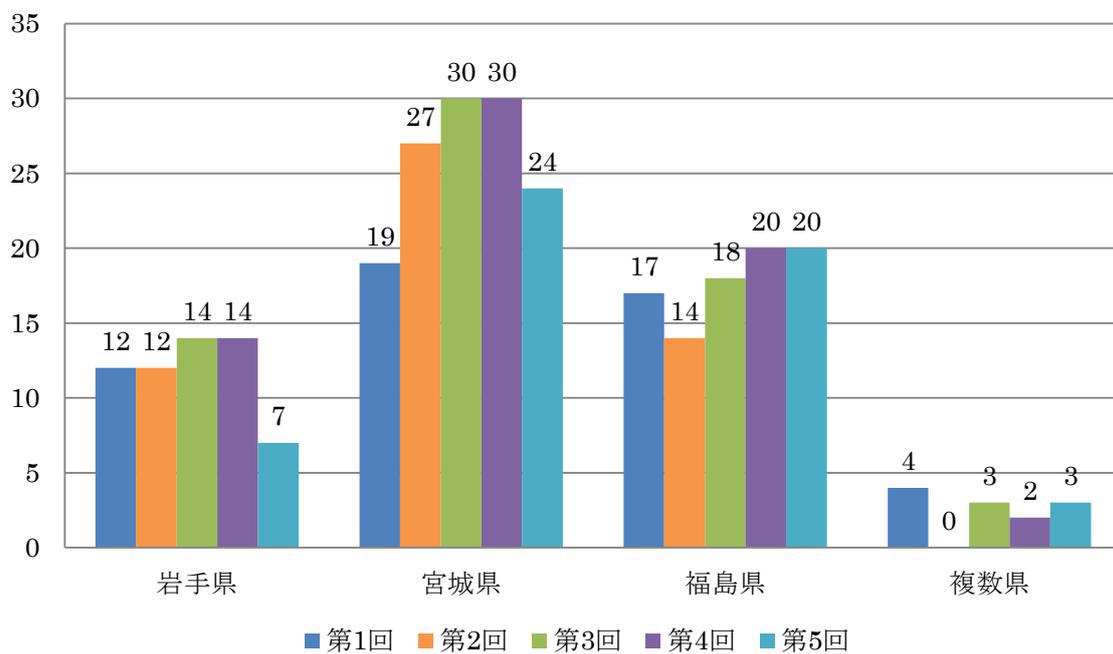
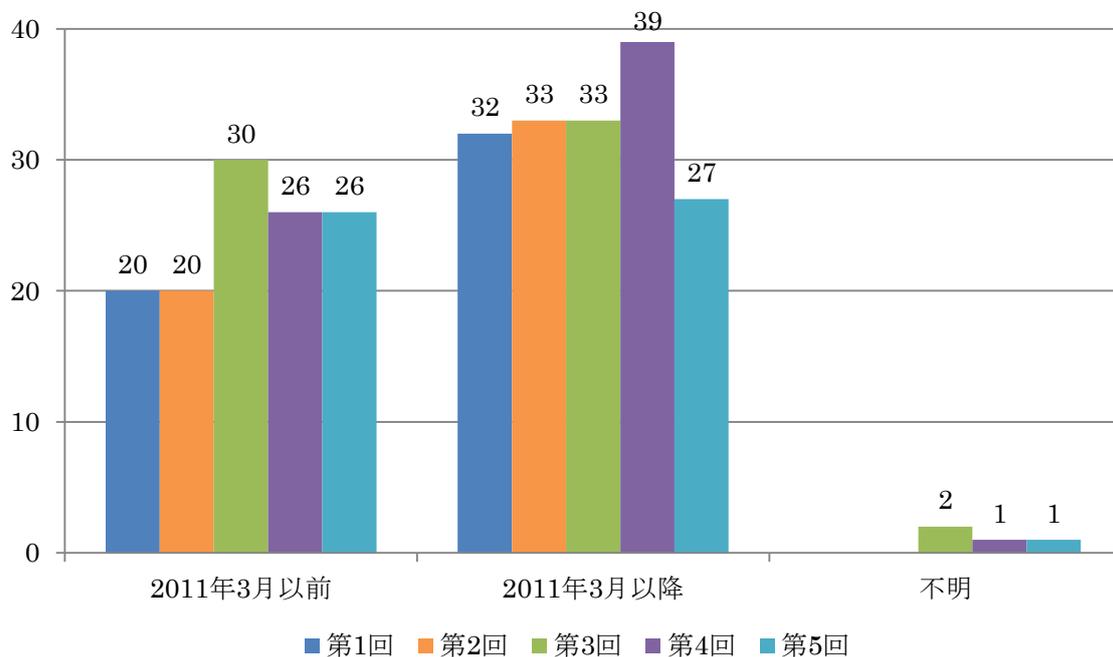


図3 (設立年月)



## 5. 第1回から第5回までの助成対象事業一覧

助成件数 29 件（新規 26 件、継続 3 件）

助成額合計：1 億 1788 万 4 千円（新規 1 億 73 万 4 千円、継続 1,058 万円）

### ◆岩手県 4 件（助成額合計 1,695 万円）

|     | 事業名   | 団体名／代表者名                            | 活動地域               | 助成額       |
|-----|---|-------------------------------------|--------------------|-----------|
| 第2回 | 水中清掃活動並びにその後の子供を対象としたスノーケル教室                            | 特定非営利活動法人<br>ブルーサポートいわて<br>理事長 青木 亘 | 岩手県<br>大船渡市        | 312<br>万円 |
| 第2回 | 外部の若者との「交流」と「挑戦」から生まれる協働事業モデルの創出                        | 特定非営利活動法人<br>SET<br>理事長・現地統括 三井 俊介  | 岩手県<br>陸前高田市       | 400<br>万円 |
| 第3回 | 東日本大震災文化芸術復興支援事業 希望の飛沫プロジェクト「岩手県三陸沿岸児童・生徒参加型創作ミュージカル公演」 | 特定非営利活動法人<br>劇団ゆう<br>理事長 菊田第一       | 岩手県<br>大船渡市<br>洋野町 | 500<br>万円 |
| 第4回 | 岩手に根ざした「和グルミ」を全国発信し地域の産業創出                              | 一般社団法人<br>SAVE IWATE<br>理事長 寺井 良夫   | 岩手県<br>盛岡市<br>野田村  | 483<br>万円 |

### ◆宮城県 13 件（助成額合計 5,187 万 4 千円）

|     | 事業名                                 | 団体名／代表者名                                  | 活動地域        | 助成額         |
|-----|-------------------------------------|---|-------------|-------------|
| 第1回 | 津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援       | 特定非営利活動法人<br>ウィメンズアイ<br>代表理事 石本 めぐみ       | 宮城県<br>登米市  | 498<br>万円   |
| 第1回 | 在宅住民・仮設住宅住民の孤立防止と災害公営住宅入居者のコミュニティ形成 | 特定非営利活動法人<br>日本国際ボランティアセンター<br>代表理事 谷山 博史 | 宮城県<br>気仙沼市 | 349<br>万円   |
| 第1回 | 子育てと就労・コミュニティを包括した事業モデルの創出          | 特定非営利活動法人<br>ピースジャム<br>理事長 佐藤 賢           | 宮城県<br>気仙沼市 | 499.4<br>万円 |
| 第2回 | 地域住民への生活支援、地域コミュニティ形成の促進プロジェクト      | 特定非営利活動法人<br>生活支援プロジェクト K<br>代表理事 阿部 正孝   | 宮城県<br>気仙沼市 | 440<br>万円   |

|           |  |  |                    |           |
|-----------|--|--|--------------------|-----------|
| 第3回       | 南三陸自然史学舎（しぜんのまなびや）構想実現のための2プロジェクト推進      | 特定非営利活動法人<br>海の自然史研究所<br>代表理事 藤田 喜久        | 宮城県<br>本吉郡<br>南三陸町 | 350<br>万円 |
| 第3回       | 私営公民館の運営と地域コミュニティの活性化事業                  | 雄勝まちづくり協会<br>理事長 及川 拓磨                     | 宮城県<br>石巻市<br>雄勝町  | 360<br>万円 |
| 第3回       | HANA 荘コミュニティ運営支援事業                       | 特定非営利活動法人<br>石巻スポーツ振興サポートセンター<br>理事長 松村 善行 | 宮城県<br>石巻市         | 300<br>万円 |
| 第4回       | ボランティア・ツアーの継続促進と、発信地との相互交流（観光と物流）拡大支援事業  | 一般社団法人<br>南三陸復興まちづくり機構<br>代表理事 山内 正文       | 宮城県<br>南三陸町        | 451<br>万円 |
| 第4回       | 被災地のものづくりコミュニティの継続的な運営と発展のための組合的販促支援強化事業 | 特定非営利活動法人<br>応援のしっぽ<br>代表理事 広部 知森          | 岩手県<br>宮城県<br>福島県  | 471<br>万円 |
| 第5回       | 街角・Café&軽食 桜さくら／フリースペースららぽーと             | 特定非営利活動法人<br>夢みの里<br>代表理事 菅原桂子             | 宮城県<br>石巻市         | 340<br>万円 |
| 第5回       | 被災による子どもの貧困救済及び貧困連鎖予防事業                  | 特定非営利活動法人<br>キッズドア<br>理事長 渡辺由美子            | 宮城県<br>仙台市         | 456<br>万円 |
| 第5回<br>継続 | 津波被災地における女性視点でのくらしの課題解決の事業化支援第二期         | 特定非営利活動法人<br>ウイメンズアイ<br>代表理事 石本めぐみ         | 宮城県<br>南三陸町        | 390<br>万円 |
| 第5回<br>継続 | 仮設住宅住民の心身の健康維持と災害公営住宅のコミュニティ形成           | 特定非営利活動法人<br>日本国際ボランティアセンター<br>代表理事 谷山博史   | 宮城県<br>気仙沼市        | 283<br>万円 |

◆福島県 12件（助成額合計 4,906万円）

|     | 事業名  | 団体名／代表者名                                       | 活動地域                      | 助成額       |
|-----|--|--|---------------------------|-----------|
| 第1回 | 双葉町役場いわき事務所との連携による双葉町が抱える課題への支援事業          | 特定非営利活動法人<br>勿来まちづくりサポートセンター<br>理事長 舘 敬        | 福島県<br>いわき市               | 413<br>万円 |
| 第1回 | 障がい児の被災者家族の支援プロジェクト                        | 特定非営利活動法人<br>ふよう土 2100<br>理事長 里見 喜生            | 福島県<br>いわき市               | 499<br>万円 |
| 第2回 | 次世代の若者による実践的地域社会課題解決プログラム                  | 一般社団法人<br>Bridge for Fukushima<br>代表理事 伴場 賢一   | 福島県内                      | 420<br>万円 |
| 第2回 | ふくしま移住女性エンパワメントプロジェクト                      | 福島移住女性支援ネットワーク<br>代表 佐藤 信行                     | 福島県<br>福島市<br>白河市         | 350<br>万円 |
| 第3回 | 小高区が「新たな一歩」を踏み出すための、世代間まちづくりワークショップ・農業交流事業 | 特定非営利活動法人<br>はらまち交流サポートセンター<br>代表理事 門馬 浩二      | 福島県<br>南相馬市               | 450<br>万円 |
| 第3回 | 福島の幼児の「外遊びデビュー」サポート                        | 特定非営利活動法人<br>こどもの森ネットワーク<br>理事長 橋口 直幸          | 福島県<br>福島市<br>郡山市<br>猪苗代町 | 400<br>万円 |
| 第3回 | 障がい者施設へのリサイクル機器貸与による障がい者就労機会創出・国内資源循環促進事業  | 特定非営利活動法人<br>くるりんこ<br>理事長 荒川 健吉                | 福島県<br>郡山市                | 400<br>万円 |
| 第4回 | いいたてミュージアム-までの未来へ記憶と物語プロジェクト-              | いいたてまでの会<br>共同代表・幹事長 佐藤 彌右衛門                   | 福島県<br>飯舘村<br>福島市         | 339<br>万円 |
| 第4回 | 福島県の子どもたちに過疎地域を活かした安心保育環境を提供する事業           | 特定非営利活動法人<br>移動保育プロジェクト<br>理事長 上國料 竜太          | 福島県<br>郡山市                | 318<br>万円 |
| 第4回 | 福島県いわき市におけるコミュニティづくり応援事業                   | 特定非営利活動法人<br>シャプラニール=市民による海外協力の会<br>代表理事 岩城 幸男 | 福島県<br>いわき市               | 462<br>万円 |

|           |                                |   |             |           |
|-----------|--------------------------------|---|-------------|-----------|
| 第5回       | ふくしまの農業を現地で知り交流する「スタディファーム」の構築 | 特定非営利活動法人<br>がんばろう福島、農業者等の会<br>理事長 齊藤 昇 | 福島県<br>二本松市 | 470<br>万円 |
| 第5回<br>継続 | 障がい児の被災者家族の支援プロジェクト            | 特定非営利活動法人<br>ふよう土2100<br>理事長 里見喜生       | 福島県<br>郡山市  | 385<br>万円 |